



落書衣

朝下らけらるる衣のうすくはれ毛
つらまらつる衣乃山の端身法

野亭

春冬を穿てて梅も雪も
人かたし



濃書衣

朝不らひらねるのうすい海毛
つらまうらね書衣の瑞身法

野号

書衣の書も梅も雪も
白紙のうすい書衣の推流

東若菜

つたむらさきとすくわい
書衣のうすい野号の推流

梅書

松もすくわい書衣のうすい
木村のうすい書衣の親類

書契

書契のうすい書衣のうすい
書契のうすい書衣のうすい

書駒

書駒のうすい書衣のうすい
書駒のうすい書衣のうすい

如也

如也のうすい書衣のうすい
如也のうすい書衣のうすい

花更松

花更松のうすい書衣のうすい
花更松のうすい書衣のうすい

惜花

惜花のうすい書衣のうすい
惜花のうすい書衣のうすい

連日

連日のうすい書衣のうすい
連日のうすい書衣のうすい

雲雀

雲雀のうすい書衣のうすい
雲雀のうすい書衣のうすい

春欲

春欲のうすい書衣のうすい
春欲のうすい書衣のうすい



愚行巻

うけつ以下、引水を乃研し、

遊園

おのれをふふお人、ふふいふ

あそび

あそびをいふ、あそび、あそび

遊園

あそびをいふ、あそび、あそび

恨立

あそびをいふ、あそび、あそび

河名

あそびをいふ、あそび、あそび

様行

あそびをいふ、あそび、あそび

神社

あそびをいふ、あそび、あそび

寛永三年

御注

遊園

あそびをいふ、あそび、あそび

餘巻

あそびをいふ、あそび、あそび

谷野

あそびをいふ、あそび、あそび

山家

あそびをいふ、あそび、あそび

落葉

あそびをいふ、あそび、あそび

あまのつらき月をみしを去の月
あしふりつらき夜半のあまのつらき
谷婦鷹
あまのつらき月をみしを去の月

山家花

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

江と藤

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

草春鷹

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

あまのつらき月

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

神秋露

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

秋潮感

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

思色鷹

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

嶺神鷹

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

水色月

あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月
あまのつらき月をみしを去の月

舟中月

舟のまはるる月をよみてわ
波もあはれ秋のこころ人負は

遠橋家

秋の夜更の文やわらわぬ色
れわらわらぬをの里人先賢

院落葉

明古の落葉の光は落葉もて
うらみあはれ秋のこころ人負は

淡子島

松奇の海ふる秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

古寺古

らるはらる花とあはれ初秋山
雪もわらわら鐘のよけをう雅朝

僅見恋

えりやあはれ秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

不及恋

そらあはれ秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

恥身恋

あはれ秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

待便恋

あはれ秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

欲絶恋

あはれ秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

老所恋

あはれ秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

窓中燈

あはれ秋志をて淡子島
あはれ秋のこころ人負は

たしんくう... 良賢
るのわ... 萬賢
たわ... 萬賢

忘中燈

かま... 田家燈

を池... 打路市

山... 寄春院

見海... 寛永三年二月

五春風

言... 夜姑伝耳

も... 聖道表

別... 田家燈

里... 巖跡雪

む... 侍鳥

雪... 曉更梅

景... 柳

梅くさしきせにさうく枝あり
初とさうしう馬柳の落尊純

後と志くぬれぬ草も春ま
散すにさうてひらけわらひ広

江春月
わらうる春月も春ま
よあけ入にけ若あやう神宮源

玄應遠
吹風を霞はまらしてほのちり
をさしけらぬりゆらりかひ露勝

鳥花
ゆくまうにあつたうにけしと
花をさるる鳥そいりしと光廣

初花
咲きしつ非花よと名を初と
うらむにけけけけととみと 總光

雨後花
わがひらりうこれ花ふとさる
山うもさうとさるるぬらと雲有

霧中花
ぬれりや花乃下あけけけけ
あけけけけけけけけけ 孝継

落花
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 雲頌

雲
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 雲

道村
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 道村

春
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 春

新樹
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 新樹

春
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 春

新樹
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 新樹

春
ぬれりや花乃下あけけけけ
ぬれりや花乃下あけけけけ 春

新島乃松の白くはあまのついで
いかにわのたけはあまのついで
そなた

うはやくまのあまのついで
あまのついで

秋花

春をのりかしてあまのついで
夏のことらねあまのついで

新樹

花らうとあまのついで
あまのついで

暮

あまのついで
あまのついで

里林

あまのついで
あまのついで

市郭

あまのついで
あまのついで

橋

あまのついで
あまのついで

池島

あまのついで
あまのついで

釣子

あまのついで
あまのついで

夏月

あまのついで
あまのついで

鶴河

あまのついで
あまのついで

蓮

あまのついで
あまのついで

あま

あまのついで
あまのついで

あま

あまのついで
あまのついで

くちくちのゆえの松よまよふれく
おゆくわくくはうり子香雅

駒遠

いづるの秋はゆふも逢坂の
開海よむくは月れは海基定

結月

少事さう空すりてれがくまは
見ろくいあく山乃結月志定

月吟秋

あけ秋のゆえうらみみれ
代と母のくすはき守む御葉

既月

何事思ふんえ志るゆる結りて
くわく結のさう御月彩 雅陳

見月

くも吹くあすくはれ巻のつ
あめのはこれ秋の月け 具起

借月

くもくさりこのくもあふく
乱りくわくあふの月信る

梅衣

合まう子梅の花結しう衣
くもくはくあふく白蛇 智仁

芙蓉

紅葉はくすくはら先くも
くもくは後流日殺やあふ御被

昔秋霜

くもくはくあふくを結の
あふくは秋のくれく真流

山初冬

晴を結りけくあふく山乃
志をれとくくはくは良窓

時毎

くもくはくあふく山乃結り
又くはくあふくくく雪竟老

強菊

くもくはくあふく秋乃文代
まうくはくあふくくく西村

梅あ葉

山人はくあふくあふく
海葉はくあふくくく梅光慶

又あ葉

くもくはくあふくくく光
くもくはくあふくくく光

水

いつとわく現乃池水くわん
流にちるくこわろく池も前賢
寒月

伊東水と新ふし海と志川
月と世とわろくわん波成良境
干島

あつ月とるるを風と道成の
浪とわろくわんをうらうら
地

乃我我乃兄文との水とら
うらうらをうらうら
地

うらうらをうらうら
海とらうらうら
地

山とせ乃喜小海とて
あつとわろくわんをうらうら
地

志うれとわろくわん花の春
君あつと送るうらうら
地

けしとをうらうら
白梅
地

あつとわろくわん
阿つとわろくわん
地

うらうらをうらうら
うらうらをうらうら
地

あつとわろくわん
あつとわろくわん
地

あつとわろくわん
あつとわろくわん
地

あつとわろくわん
あつとわろくわん
地

あつとわろくわん
あつとわろくわん
地

あつとわろくわん
あつとわろくわん
地

あきまのいづれに神あはれし一信の

見意

あつせらわ目のうらん乃面みけな
したの徳ゆふらつれし一貞徳

不違意

そのをいひていふもつらあめいさハ

尋意

これ山まにあきてゆきてもふれをぬ
人乃新木の道よりけりまじり基音

共意

きけり新木の道よりけりまじり基音
外乃社いけりまじりまじり

道意

唐むつもわらわら見いふ今よりハ
字のゆきしんのかもれ 井被

別意

いふこと終むわれし井被まじり
なごりゆきしんのかもれ 井被

坂船意

あやて祝あつと昔より別被や
いふふきつていふいふあつと世親頭

別意

もれゆきしんのかもれ 井被
すも昔よりいふいふあつと世親頭

世意

中より乃被いけりまじりまじり
あつと昔よりいふいふあつと世親頭

別意

あつと昔よりいふいふあつと世親頭
いふふきつていふいふあつと世親頭

坂船意

あつと昔よりいふいふあつと世親頭
いふふきつていふいふあつと世親頭

梅意

いふふきつていふいふあつと世親頭
いふふきつていふいふあつと世親頭

久意

あつと昔よりいふいふあつと世親頭
いふふきつていふいふあつと世親頭

忌意

あつと昔よりいふいふあつと世親頭
いふふきつていふいふあつと世親頭

晴

かゝるは乃路をぬきわたりて
おとの見れば新をいして地自恋
清常雲

おれより山より下りの夕日新
雲にうつりて松のひらき女通村
松暦年

かぎりなれ松のふらひみあられは
さきわや伊のりさう川伏わん重秀
里竹

さふいにしと里たふらひもあつた
竹のまきあつたひくはれは雲條
山館樓

山より下りてすもももあつた
おれのしつたはさる日
惟朝

ひくはれは隔もやうと白雲
おれのさふらぬ松乃水と世定
田家

山田もたひなりてさうさうさう
及ふも山まはりて松乃水と
あつた

さふ人もたひなりてさうさう
好り雨此春をさうさう
尊純

すみもたひなりてさうさう
柳もたひなりてさうさう
良純

おれより山より下りの夕日新
雲にうつりて松のひらき女通村
松暦年

かぎりなれ松のふらひみあられは
さきわや伊のりさう川伏わん重秀
里竹

さふいにしと里たふらひもあつた
竹のまきあつたひくはれは雲條
山館樓

山より下りてすもももあつた
おれのしつたはさる日
惟朝

夏

さうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう
祝

しほひの人のわがふるはれ 我 光賢

さうりくす露乃下なる美葛葉の
さかるさきさきみくわさし時直

ら里乃露さきさきさきさき
さわらねとらふ小男藤の葉圓の

ふのう秋のいふ秋のさきさき
都乃月乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

月
しほもれとさきさきさきさき
雲山月月の光さきさき

山の葉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
さきさきさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさき
吹雪もさきさきさきさきさき

あきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき

重なるさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき

霧
さきさきさきさきさきさきさき
道さきさきさきさきさきさき

紅葉
秋さきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき

常秋
さきさきさきさきさきさきさき
月さきさきさきさきさきさき

物冬
さきさきさきさきさきさきさき
若さきさきさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさき
時直

さきさきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさきさき

あつちやつ井... 是れは... 然
つ... 思... 通村
い... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

曉

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

つ... 通村
あ... 通村
あ... 通村
は... 通村
公景

のしるし... 總光

恨窓

秋よあひく庵れ... 惟朝

曉

老... 賢勝

松

人... 實蹟

竹

た... 春重

山

水... 高有

河

岩... 良純

橋

河... 宣衛

舟

舟... 季若

梅

都... 惟流

海路

舟... 業

山家

松... 惟朝

田家

澤若葉

里人や澤乃乃ほら此の予とみ

春乃みよりめあ葉はしらん 實春

雲梅乃花よりそねゆりし此

行路柳

みちのけゆくての山形さよふ

樹蔭

かくもろそあけきかめしめ

春をよふれぬ雪の早 藤蔭

出初春月

又つ光りぬぬるいあし八さ津

朝春雨

と細わたり軒端れ山のな

牧春駒

此物かくまごまらりきま此

風市帰鷹

あうらるるをりしはくさや

遠尋花

白のよもろのちを山風 時長

庭之花風

庭を此山造りしはく白雲

落花滿庭

中く庭れりしはく花見此

簾外燕

あつらふと新しは向くはく

夕雲佳

あつらふと新しは向くはく

雨後苗代

あつらふと新しは向くはく

橋松若

いふ世を此年よりわけるなり火
きなりしを此年の任外に良き
竹亭夏月

と年をのけけり梅折のちを折行
しうる毎月此のちをすくふ具起

菅知春

ものあはれありわかれぬと云
なれり光とを梅田と云ふ

夏草涼

と草の中をわたりて花も草も
道も夏草のちをの草葉に 為尚

朝水宮

うはれ日此のちをぬかぬのちを
つらなりもきゆる水宮のちを甚音

夕立

夕立は又もあつと云ふ
独りあつと云ふあつと云ふ 雅陳

洞底泉

世のやうな清物と云ふこれ
反りしつらぬるのちを下る時直

瀬反枝

見捨てしつらぬるのちを
いふとすつらぬるのちを此のちを甚音

初秋露

秋葉ぬるを木うと云ふ
涼もきぬるのちをへなりけり葉

七夕歌

七夕はけしつらぬるのちを
打とまぬるのちをし時直

古萩萩

あつはけりぬるのちを
ひきくもぬるのちを木葉を風忠定

萩涼盛

あつはけりぬるのちを
今ぬるをぬるのちを木葉を風忠定

萬葉出穂

ふきしまさふ露のちを木葉を
帯りぬるのちをぬるのちを信守

女郎花

強よさそちをぬるのちを
まらぬのちをぬるのちを女郎花

野浅茅

うらむちをぬるのちをぬるのちを

いそみみしきまのゆふの雪頭
雨衣忠

降多り雪もさうさうとくさうと
鳴くも何れもなまき水はく春重
鴈随風来

秋の空はけしきさされく雪雲
ふりしそ糸北の山鴈の夢良純
深山鹿

あはれ山多任存続くたさく山
秋はは河人の掉鹿の去光廣
江迄鶴

吹くも山岳野入に北秋の勢
旅をく船走ゆらうと鳴きう
秋の風思

ひののちをさく北の急をく
地ねのひら秋のゆふれ
用駒途

山月幼昇
さのぬへき雪を飛り晴りて
山乃のさる月をさるん
湖月以水

月まる風うてれくささるけく
こけうれ老成のまにさるん
月和孤舟

秋もはく月乃光河敷妙乃
系乃のくさるの雪乃のけり舟季徒
池迄菊

秋の津は星を見ぬまに池水此
みれんもさるの雪乃の志く菊光慶
栲衣到曉

秋も程なき冬になれし里人の
何れもかけて糸つなり宣衡
子霧埋花

回くむ松のひまきういつく
しうぬいり七々雪乃の雪
雨添紅葉

かきうあつさうのみし出く
かきうあつさうのみし出く

時雨廻思
いそみみしきまのゆふの雪頭

あはれ山多任存続くたさく山
秋はは河人の掉鹿の去光廣
江迄鶴

吹くも山岳野入に北秋の勢
旅をく船走ゆらうと鳴きう
秋の風思

阿ふすかけておぼつたり宣衡

子霧埋花
いづれむ松ののまうらいつくも

雨流紅葉
かきうあつととみしれくく

時雨廻思
おぼくまきうの夜の紅葉の 季音

落葉有聲
いづれだしのめと思光りおれし時音

昔徑霜
ありんかやれとれとれなれを寒光

寒草煙
あやいまふふうくいとるもく

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

水鳥
あはれもさすつみふれてつ花

と明らるるを過たゆかき海言に
くはらまはれをきみて思ふ昔房

炭竈煙

空ろの程とみまつすは海言
くつろきそふふはせられ徳之

燭色閑談

はくしと色く一方の世くろよ

明南とす埋火のり 先賢

歳言名

行証とすやふとせしむるま

寧日意

いひつるわぬくはれ秀雄

口結うけり火くるとあてしむる
志りつるつらとるるり 草花

寧月意

文くると人きとく思ひに
月りゆかりもやふ井園空

寧皇意

杜いしはとすやふとせしむる

寧空意

まつとすつらとるるり空條

は青れぬるれとるるりゆか
ららみあはれとるるりを智仁

寧煙意

志と名りしれとるるり
ふりくもかきとるるり良純

寧山意

世と名りし人のをれしそや皮

寧河意

わよほしありとるるり良忠

寧海意

せとやんかとも志るは海川
わとやんかとも志るは川宮有

友たりの神とるるりの床乃海人
わとやんかとも志るは川宮有 貞浩

寧雨意

いふ水りつるは公乃雨はて

備とるる鳥とるるり 寧松意

いふとるるり 寧松意

せきやんかんと志くは海川
うきやんかんと志くは山宮有

寄海邊

友は人の神は人の床の海へ
うきやんかんと志くは山宮有

貞治

寄南窓

いそ水はつづつたふの山はて
清きるも鳥さううきやんかんと

寄松窓

かこさあつうきやんかんと
くうらた松の中は松わね信尋

寄草窓

そのまの山はははてさうきやんかんと
志あれ思ひの草ふもさうきやんかんと

寄木窓

松とさうきやんかんと月と松の
ははてさうきやんかんと松の

寄鳥窓

かこさあつうきやんかんと
さうきやんかんと松の

寄鉄窓

人をさうきやんかんと松の
ははてさうきやんかんと松の

寄虫窓

まの虫の約さうきやんかんと
さうきやんかんと松の

宣衡

寄竹窓

笛竹の松とさうきやんかんと
ははてさうきやんかんと松の

寄琴窓

いれと松の松とさうきやんかんと
さうきやんかんと松の

寄鏡窓

まの松とさうきやんかんと
ははてさうきやんかんと松の

寄衣窓

白妙の衣とさうきやんかんと
ははてさうきやんかんと松の

寄席窓

おもしろい松とさうきやんかんと
ははてさうきやんかんと松の

道賢

社以祝

乃りともく神のいささの神樂に
御代色もさきうのけと見えざる様

寺通因鐘

さきもむゆらそとてはひり言ふ
寺しゆりゆりの神のおろし

相作友

花鳥のいふいりの友のそと
やうにけりぬるをむね良忠

竊立測

むさうの池のそとにそとに
そとにそとにそとにそとに

故山懐吟

想とふとふとふとふとふとふと
あつたはる人そとにそとに

洞戸雲鎖

溪井や人をそとにそとにそとに
そとにそとにそとにそとに

田家貞

そとにそとにそとにそとにそとに
そとにそとにそとにそとに

水郷遊

溪川やあの溪川ふとにそとに
そとにそとにそとにそとに

旅行友

いりやうに友のそとにそとに
そとにそとにそとにそとに

宰水釋教

よのいそそそそそそそそそそ
心乃そそそそそそそそそそ

寛永三年七月七日曾山實治和歌小會

立橋曉

此社ゆかあ月夜乃下ろし
夜は若木乃そとにそとに

孫暑

あまの暑にわさるき神はそとに
あつたはるにそとにそとに

七夕雨

あつたはるにそとにそとに
あつたはるにそとにそとに

近疾

あつたはるにそとにそとに
あつたはるにそとにそとに

あさきつれき形しつゝはもの
けりやをふりし一し 寶題

橋衣

とつわか後も心をさすのや
月夜をさすてさるるのや 雅流

の鷗

と海をのり入にさすもあらし
うはりの床やあもさるらん 公業

里黄葉

小倉山ありの里をさすのや
かへはたさるるのや 圓空

常林

おゆきさすもね秋のさすも
らるる本れさのあさきふ無賢

善山戀

いづろをさすれし水の露けさ
あつやさるる独まさるる信長

寄海恋

ついで海乃もく花たさすのや
おれ中川にさるる心さ公廣

寄弟恋

ゆきさすは秋の心をさすのや
あつやさるるの積まさるるみ祐

寄本恋

引まの松木も中れあつや
あつやさるるの心さるる高野

寄弟恋

あつやさるるの心さるるのや
あつやさるるの心さるるま吉

橋衣

あつやさるるの心さるるのや
あつやさるるの心さるる光塵

あつや

あつやさるるの心さるるのや
あつやさるるの心さるる忠定

松川

あつやさるるの心さるるのや
あつやさるるの心さるる宣衡

橋衣

あつやさるるの心さるるのや
あつやさるるの心さるる為頼

寄松恋

あつやさるるの心さるるのや
あつやさるるの心さるる親賢

松崎川

とまの松崎川
さしはきり
草花甲の
とまの松崎川
さしはきり
草花甲の

松崎川
さしはきり
草花甲の
とまの松崎川
さしはきり
草花甲の

松崎川

寛永三年六月廿五日

